



早池峰山のお花畑とハヤチネウスユキソウ
北上高地最高峰の早池峰山(1,917m)は「花の名山」とも呼ばれています。点在するヨーロッパのアルプスのエーデルワイスに似た「ハヤチネウスユキソウ」や様々な高山植物に励まされながら険しい岩場を登り切ると、頂上付近には神様からのご褒美のように花園が広がっていました(群生しているのは「コバイケイソウ」)。2013年7月20日撮影 (AK)

巻頭言 肺2大疾患同時検診

院長 後藤 元

複十字病院の玄関を入ると、正面、総合案内の左側の壁に大きなポスターが貼られていることに気が付かれたでしょうか。水色を基調とした背景から、「肺2大疾患同時検診」というタイトルが、黄色でふちどりされて、今にもポスターから飛び出しそうな勢いで、目に入って来ます。

ここで示されている「肺の2大疾患」とは、ひとつは「肺癌」、もうひとつは「COPD」という病気です。「肺癌」はともかく、「COPD」という病名は聞きなれない方も多いと思います。日本語では「慢性閉塞性肺疾患」といいますが、ますますどんな病気か、わからなくなるような名前ですね。

これは、タバコと深い関係がある病気です。タバコを吸い続けていると、やがて、気管支に慢性の炎症が起きて、咳や痰が続くようになってきます。さらに気管支の先にある肺胞という、酸素を取り入れる肝腎要の組織までも壊されてしまい、息をすること自体が苦しくなってきます。坂道を登るのは一苦労、平地もゆっくりでなければ歩けない。こうした状態に陥ってしまった時、これを「COPD」、あるいは「慢性閉塞性肺疾患」といいます。

「肺癌」は、今や、我が国の男性の「がん死」の第一

位を占める疾患になっています。一方「COPD」は、あまり目立ちませんが、我が国における患者数は、500万人を超えており、また、WHO(世界保健機構)によると、2020年には、「COPD」は、世界の死因の第3位を占めることになるであろうといわれています。

「肺2大疾患」は、いずれも喫煙と深い関わりがあります。ですから、何をおいても禁煙が、まず必要です。そして、今一つ大事なことは、早く見つけることです。

早期に見つけさえすれば、多くの「肺癌」は治すことができる時代になってきました。そして「COPD」も、早期に見つけることによって、呼吸苦の進行を食い止め、日常生活が続けられるよう治療を開始することができます。

「2大肺疾患」を早期にみつけるための検診を複十字病院は始めました。しかも、「2大肺疾患」の検診を一度に、それもたった30分で済ませてしまおうというものです。我が国でもまだ殆ど行われていない検診です。

私たちは、この検診が、ここ清瀬の地から全国に向けて広がることを願っています。

「肺2大疾患同時検診」の申込先は、複十字病院042-491-4712です。

2015年度

複十字病院情報システム更新について

情報システム部長 早乙女 幹朗

2015年5月7日、複十字病院の病院情報システムが6年ぶりに更新されました。基幹システムはこれまで使用してきた(株)日本電気のMegaOakのバージョンアップ版、MegaOak 9.0です。この基幹システムの周辺システムとして、医事会計システムIBARS II、看護支援システム(無線LANによる3点認証を新たに導入)、看護勤務管理システム、栄養管理システム、診療情報管理システム、検体検査システム、病理検査システム、細菌検査システム、輸血システム、調剤支援システム、服薬指導支援システム、再来受付・外来表示システム、内視鏡システム、放射線システム(RIS/PACS)が更新となり、今回新たにリハビリシステムが導入されました。これらのバージョンアップや新たなシステム導入により、一層の業務の効率化と病院安全管理の充実が図られています。また、院内ネットワーク配線についても、一部は敷設から15年を経過して老朽化した部分が目立つようになってきたため、配線の一部引き直しとVLAN(仮想ローカルエリアネットワーク)技術を用いた新しい機器への更新を行った結果、伝送容量に余裕ができるとともにVLANによって機器構成が単純化されましたので、より使いやすく保守も簡単な仕組みに出来上がりました。

近年、病院情報システムは診療などの業務を円滑に行うためになくはならないものになってきていますが、病院業務というのは一般の企業の業務と比較すると職種や仕事内容が大変複雑で個性が高いため、導入には長年のノウハウを蓄積したシステム会社と病院スタッフの綿密な打ち合わせ作業が必要とされるのが特徴です。当院は339床の中規模病院ですから大学病院のような巨大で複雑なシステム導入は必要ないのですが、そうは言っても、各職場から出てくる業務上の要求仕様を取りまとめてシステム会社の仕様とすり合わせる作業はかなり膨大なものですので、今回のシステム導入準備作業は、約1年半前から開始しました。

まずは、基幹システム選定のため、当院規模の病院に情報システム導入の実績を持つメーカー数社に連絡し、最新版システムのデモンストレーションをしてもらいました。システムには各社それぞれ特徴があり、優れた部分とそうでない部分があるし、当院の業務には合致しないと考えられる製品もありましたので、それらを総合的に評価して候補の会社を絞る作業をおこなっていきました。もちろん、導入コストも大切な評

価項目です。候補となった会社には、数百ページに及び導入仕様書を作成してもらって機能の詳細な比較検討を行い、当院の要求仕様に合わせるための細かな修正作業ののち、価格提示を受けて結核予防会本部の判断により、昨年8月に(株)日本電気のシステムの採用が決まりました。

基幹システムが決まったあとは、部門システムとネットワークシステムの選定です。各部門の担当者と経理課で複数業者の提案をもとに候補選定・入札を進め、基幹システムとの接続を含めた仕様の検討を行いました。実は今回、各部門から先述のもの含めて新規のシステム導入の希望がいくつも出ていましたが、残念ながら病院の財政事情から断念せざるを得なかったものもあり、それらの導入は今後の検討課題となりました。

新規システム導入の具体的な打ち合わせ作業は昨年11月にキックオフとなり、システム管理室や各部門のスタッフがメーカー側と細かな設定の打ち合わせなどを順次進めました。

キックオフからシステム導入完了までの約半年の間にシステム管理室が出席した会議は百数十回、メールでの院内外とのやり取りは1,000通以上にもなります。システム設定の打ち合わせは3月上旬でほぼ終了し、3月末まで院内スタッフの操作研修を実施、4月18日には運用リハーサルを行って最終確認を行いました。5月2日から3日で院内の機器の総入れ替えを完了して4日から新規システムの一部運用開始、7日には全面運用開始となっています。

この原稿を書いているのは6月上旬で、新システム導入から1か月経ったところです。今回のシステム更新については、小規模のトラブルはいくつかあってまだ改修作業中のもものありますが、全体としては概ねスムーズに導入を進めることが出来ました。これは、システム管理室や部門のスタッフ、そして病院全体のスタッフの協力による成果であり、関係した皆さんには心より感謝しています。

次の病院情報システム更新は6年後になりますが、今回のシステムについて6年間何も進歩しないというわけではありません。毎日の保守を行いながら適宜運用を見直して業務の効率化や安全管理の向上を図り、同時に患者サービス向上を目指していく所存ですので、どうぞ皆様よろしくお願いたします。

看護部に3点認証が導入されました

情報システム部システム管理室 看護部看護師長 井上 恵美子

5月7日から新システムになり、看護部では前回（2009年）から比べると、大きく変化しました。病棟・化学療法室で看護師用のノートパソコンの使用を開始し、『3点認証』システムを導入しました。今回は『3点認証』についてご説明いたします。採血・注射・検体検査（喀痰・採尿など）において、ベッドサイドで①患者さん本人②医師の指示③実施看護師の3点を認証し、取り間違い・検査の内容間違いなどを防止するシステムとなっております。患者さんには、リストバンドを提示していただき、検体や注射がご本人であることを、実施直前に確認させていただいております。（詳細は、写真でお示しいたします）

導入してまだ慣れないこともあり、患者さんにはご不便をおかけしていることと思いますが、『3点認証システム』にて一層患者さん確認を強化できることを徹底していきたいと考えております。



バーコードリーダー



看護師が、患者さんの所へワゴンを持って検温に回ります。

ピ!

患者さんのリストバンドとバーコードリーダーで認証

看護の日のイベント

2015年看護の日イベント担当 3S病棟 稲垣 絵美子

ナイチンゲールの誕生日である5月12日に、看護部では看護の日のイベントを行っています。今年も5月12日（火）9時～15時、玄関ホールにて開催しました。

今年は『看護の心をみんなの心に』をテーマに、各部署から工夫を凝らしたポスターが勢ぞろい、素敵な作品が揃いました。

イベント内容は以下の通りです。

血圧測定、体脂肪率測定、看護なんでも相談、血糖値測定、肺年齢測定、介護用品展示をはじめ、東洋羽毛の抽選会、職員作品の切り絵、無料配布品を寄付して頂いた職員OGや職員家族の竹細工は大盛況でした。

また、昨年大好評だった複十字のキャラクターのシールぼーやが参加し、今年は手術室の看護師に頑張ってもらいました。イベントの準備から終了まで中央監視室や各部署の職員の協力があり、無事にイベントを行うことができました。協力して頂いた方々に感謝申し上げます。

今後もこのイベントは継続してゆく予定です。来年も楽しみにしていただけたらと思っています。

各イベント報告

- ◆血圧測定 72名
正常値入りの用紙に測定値を書き入れて渡しました。
- ◆体脂肪率測定 81名
正常値入りの用紙に測定値を書き入れて渡しました。
- ◆看護なんでも相談 5件
- ◆血糖測定 117名
業者も参加
- ◆肺年齢測定 52名



PET/CTの紹介

放射線技術科 秋山 洋一

当科では10年前から糖代謝を利用したPET/CTという検査を行っています。

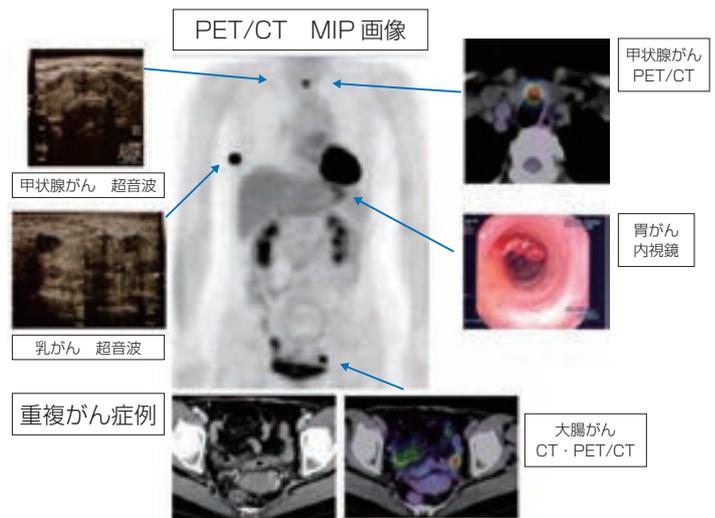
PETとは「ポジトロン エミッション トモグラフィ」(陽電子放出断層撮影)の頭文字をとった略語です。

この検査で使う薬は¹⁸F-FDG (フルオロデオキシグルコース) と言って、ブドウ糖(グルコース)に似た成分にF(フッ素)-18という放射線を出す放射性同位元素をくっつけた薬剤で、これをごく少量静脈に注射し、特殊なカメラで画像化することにより、全身のがんや炎症を調べたり、腫瘍の大きさや場所の特定、良・悪性の鑑別、転移状況や治療の効果判定、再発診断などに利用しています。

撮影そのものは、20~30分間ベッドに横になっているだけで、ほぼ全身を調べることが出来ます。その注射した薬剤(ブドウ糖)が体内で代謝している様子を撮影しますので、撮影を開始するまでに1時間ほどお待ち頂きますが、CTやMRIの造影剤とは違い、主にブドウ糖ですので、アレルギー反応や副作用の心配は無く、喘息や腎臓病などがある方でも安心して受けることが出来ます。また逆に血糖値

が高いと検査の精度が落ちる可能性がありますので、糖尿病の方は予めご相談下さい。

PETでブドウ糖代謝などの機能を診て、CTで形態の異常を診ることが出来るので、定性だけでなく定量性にも優れた検査です。他の検査で分らない「不明熱」や「原発不明がん」などにも効果的な検査です。



ストロンチウム-89による多発骨転移の疼痛緩和治療の紹介

当科では、PET/CTやガンマカメラによる画像診断以外に、ストロンチウム-89というお薬を注射してがんの骨転移による痛みを和らげるための治療も行っています。

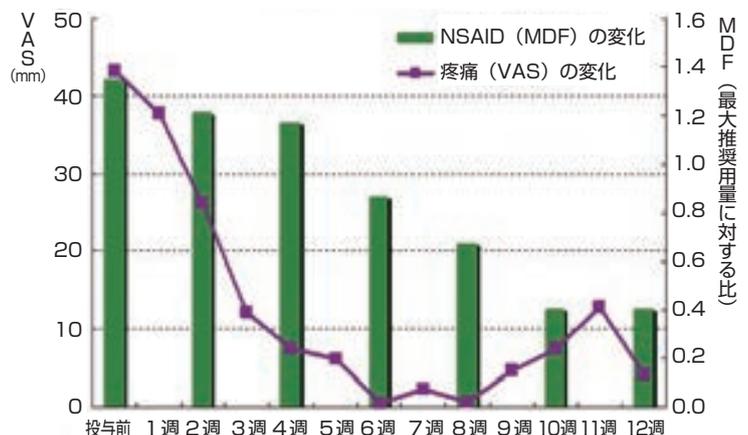
ストロンチウム-89は、カルシウムと似た性質のため骨に集まりますが、特に骨を作る細胞(造骨細胞)が盛んな骨転移部位に多く集まります。またストロンチウム-89は、ベータ線という治療に適した放射線を出しますので、骨転移部位をそのベータ線で照射することにより、痛みが和らぐと考えられています。

骨転移の痛みによっては日常行動が制限されたり、夜眠れないなどの障害が出るなど、患者さんの生活の質(QOL)が著しく低下します。さらに進むと、骨がもろくなって骨折したり、骨に囲まれた神経が圧迫されて麻痺が出てくることもあります。これらの治療には放射線治療と多くの薬を使った薬物療法がありますが、外来で注射1本で出来るこのストロンチウム-89という治療法が新しい選択肢として、痛みを苦しむ多くの患者さんの福音となるよう期待しています。

99mTc-HMDPIによる骨シンチグラフィ



VASによる疼痛評価と鎮痛薬(NSAID)使用量



(資料提供) 日本メジフィジックス

糖尿病・生活習慣病センターでは4月から小林俊介医師（日医大）が新たに加わりました。これに伴い入院患者を受け入れるシステムが完成して、入院診療もさらに充実して行うことができるようになりました。

入院が必要となるケースはケトシスを伴った高血糖例、感染症の併発例、術前血糖コントロールの必要例、ステロイド治療例、化学療法時の日常生活困難例などが挙げられます。このような例では血糖コントロールを良好に保ちつつ、全身管理が必要となります。一方、日本では「教育入院」といった概念があります。このような例での入院目的は単に高血糖を是正することではありません。これは血糖値の是正と共に、糖尿病療養のための正しい知識を短期間で学んで頂くことが目的です。入院のメリットは様々な事が挙げられますが、最も重要な点は（1）患者さん自身の糖尿病状態、身体的な問題点を見なおすことができること、（2）正しい知識を得ることができること、（3）疑問点を即座に解決できることなどです。これらは外来での診療や糖尿病教室でも行っていることですが、糖尿病の悪化に伴う身体変化を見極めるには「入院治療」が最も適した療養方法です。

教育入院ではあらかじめ患者さんに入院中に行う予定表をお渡しして、ご理解頂くように進めます。7日、10日、14日間の3つのコースで行う予定です。これは、病診連携においてもご案内して、地域医療に役立てるようにしたいと考えています。

皆様のご協力とご理解を、宜しくお願いします。

◆ 院内での携帯電話等の利用について ◆

医療安全対策室長 河口 晃二

当院ではこれまで、携帯電話が医療機器に誤作動等の影響を与える可能性があるとの理由から、指定場所以外の携帯電話（スマートフォンを含む）の使用を禁止しておりました。近年携帯電話の改良や医療機器の機能向上など、医療機器がその影響をほとんど受けなくなってきたことから、次のルールで使用していただくこととしました。

ご来院の皆様におかれましては、使用場所とマナーを守っていただき、周囲の方々の迷惑とならないようご協力をお願い致します。

◆ 使用上のルール

- 使用できる時間帯は朝7:00～午後9:00までとして下さい。
- 大声や長電話等で周囲の方の迷惑とならないようマナーをお守り下さい。
- 院内における携帯電話等で写真撮影や動画撮影についてはご遠慮下さい。
- 使用可能な場所でも医用電気機器をご使用の患者さん・ご利用の皆さんに配慮してご利用下さい。
- 院内には、医療機器専用のコンセント（赤く塗装）があります。携帯電話等の充電には使用しないで下さい。（厳禁）



◆ 院内エリアごとの携帯電話等使用ルール 一覧

場 所	通 話	メール・Web等	留 意 点
手術室・検査室 放射線撮影・治療室	×	×	使用しないだけでなく、電源もOFFにして下さい。
診察室	×	×	診察の妨げにならないよう使用をお控え下さい。
外来・検査待合室	×	○	医用電気機器からは1m以上離してご利用下さい。
病室（多人数病室）	×	○	
病室（個室）	○	○	
病棟（食堂・談話室）	○	○	
廊下 エレベータホール	○	○	医用電気機器からは1m以上離してご利用下さい。 歩きながらの使用はお控え下さい。



清瀬地区学術講演会

2015年5月21日（木）午後7時20分より結核研究所講堂にて、ノバルティスファーマ株式会社共催、複十字病院登録医会後援「清瀬地区学術講演会」が開催されました。

当日は登録医の先生方をはじめとして約50名の方がご参集くださり、盛会裏に終了いたしました。演者及び演題は下記のとおりです。

講演 「心房細動と抗凝固療法」

演者 日本医科大学多摩永山病院 院長 新 博次 先生



（座長を務めた、当院鈴木健康管理センター長）



（ご講演頂いた、日本医科大学多摩永山病院長 新博次先生）

第6回結核予防会事業所学術発表会開催

2015年6月13日（土）に当院隣の結核研究所にて、結核予防会事業所学術発表会が開催されました。当院が属する結核予防会全体の学術的發展を目的として、結核予防会の各事業所（結核研究所・複十字病院・新山手病院・保生の森・総合健診センター）が研究報告や日常の診療・業務に係る成果を発表しました。その後、複十字病院の見学・懇親会があり、普段はあまり関わりのない事業所間の交流を深めることができました。



清瀬市から「けやきの椅子」を 寄贈していただきました

庶務課 瀧口 竜太

皆様、お気づきでしょうか？病院正面から道路が見えるようになったことを！

昨年度までは、当院の道路沿いは、木々及び雑草が生い茂り見事にプチジャングルを形成し道路から当院の敷地の視界を遮っておりました。しかし昨年度春と秋にお隣の清瀬高校の生徒がボランティアでジャングル開拓のように生い茂る木々と雑草地帯を切り開き整備してくれたおかげで、見事に道路から当院の敷地が見えるようになりました。清瀬高校の方々、誠にありがとうございました！

いわば病院の玄関口ともいえるその場所をその後少々

整備して、清瀬市水と緑の環境課の御好意により2年前にもいただいたのですが、「けやきの椅子」をいただきました。けやきの木は清瀬市のシンボルの木で、長年、清瀬駅から市役所まで続く「けやき通り」に植えられていたけやきが経年劣化により倒木の恐れがあるため、清瀬市が伐採して腐敗していた箇所を取り除き椅子に再利用した物を寄贈していただきました。

長年、清瀬市民を見守り続けた「けやき」は形を変えて当院の患者さん・関係者の憩いの場になりこれから見守り続けてくれます。皆様、お時間ある際は是非座ってホッと一息ついてみませんか？

清瀬市水と緑の環境課の方と記念に



永年勤続職員表彰式に参加して

経理課 課長代理 渡邊 和俊

去る5月22日に早稲田のリーガロイヤルホテル東京にて永年勤続（30年）職員表彰式が、本会総裁秋篠宮妃紀子様のご臨席を賜り開催された。

当院からは私と加藤いずみさん、本部他施設、各府県支部も合わせ合計53名が出席した。

開会にあたり表彰状受納方法につきレクチャーを受けたが、それがキチンとしていて、私自身このような式に出席するのが10年前の永年勤続20年表彰式以来で、はたしてちゃんと受け取って自席に戻ってこられるのか、とプレッシャーのかかるものでした。

無事表彰式も終わり、これと同時に開催された資金寄附者に対する感謝状贈呈式後に永年勤続職員全員で記念写真撮影、お茶会と式は瞬く間に終わった。

瞬く間と言え、この30年に起こった一つ一つの事を思い出すと長かったとを感じるが、こうして表彰状を受け取ると瞬く間と言うのがピッタリであった。第一健康相談所、本部、複十字病院、また一健、新山手病院、また本部そしてまた複十字病院と一施設平均5年のサイクルで異動をし、大変であったがいろいろな経験をしたと思うと楽しい30年でもあった。

最後に、まだまだこの複十字病にお世話になると思いますが、皆様今後ともよろしく願います。



複十字病院の理念

複十字病院は、質の高い温かな医療と看護を提供するとともに、医療連携を推進し地域社会が求める包括的な医療の実現を目指します。

● 病院運営の基本方針 ●

1. 呼吸器疾患、がん、生活習慣病を柱とした質の高い温かな医療と看護の充実を図る。
2. 国の高度結核専門施設、東京都（肺がん、大腸がん、乳がん）診療連携協力病院としての役割をはたす。
3. 複十字病院登録医会を中心に医療連携を推進し、在宅医療、救急医療、災害時対応など地域医療に貢献する。
4. 健診事業を発展させ、疾患の早期発見と予防医療を推進する。
5. 複十字病院『患者権利章典』を尊重する。

複十字病院『患者権利章典』

患者のみなさまは、人間としての尊厳のもとに医療を受ける権利があります。医療は患者と病院がお互いの信頼関係のなかで共につくり上げるものであり、みなさまに主体的に参加していただくことが必要です。病院と病院職員は「患者中心の医療」の理念のもとに、複十字病院『患者権利章典』を守り、みなさまの医療に対する主体的な参加を支援します。

● 患者さんの権利 ●

1. 人格を尊重され、思いやりのある最新で最良の医療を受ける権利があります。
2. 病気の診断・治療方針・今後の見込みについて知る権利があります。
3. 十分な説明を受けた後、ご自身の選択に基づく治療を受け、また、法の許す範囲で拒否する権利があります。
4. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利があります。
5. プライバシーを保護される権利があります。
6. ご自身の診療記録、治療費の内容について開示を求める権利があります。
7. 退院後のことについて指導を受ける権利があります。

● 患者さんにご協力いただくこと（責任）●

1. ご自身のこれまでの病歴や現在の病状について担当医に詳しくお話し下さい。
2. 病気を治すために、ご自身も必要な努力をして下さい。
3. 治療を継続して受けられない場合は、担当医師にご相談下さい。
4. ご自身や他の方の診療、入院生活に支障を与えないようにして下さい。

人事異動

2015年3月15日～2015年6月14日まで

【採用】

(医師)	大 沢 文 子	4/1
(医師)	鎌 形 千 尋	4/1
(医師)	新 井 孝 明	4/1
(理学療法士)	千 住 秀 明	4/1
(薬剤師)	中 溝 ま ゆ	4/1
(看護師)	佐 藤 可 菜	4/1
(看護師)	生 美 咲	4/1
(看護師)	板 橋 久美子	4/1
(看護師)	石 坂 清 加	4/1
(看護師)	古 屋 瑞 穂	4/1
(看護師)	齋 藤 久美子	4/1
(看護師)	佐々木 みづ穂	4/1
(看護師)	池 崎 誠之介	4/1
(看護師)	吉 田 真由美	4/15
(看護師)	尾 崎 徹	5/15

【退職】

(医師)	渡 辺 雅 人	3/31
(医師)	片 岡 功	3/31
(看護師)	沼 田 陽 子	3/31
(看護師)	菅 野 ちさと	3/31
(看護師)	田 島 由 江	3/31
(看護師)	菊 次 智 子	4/14

行事予定

1. 職員健康診断

日 時▶ 2015年7月14、16、17日
9:00-11:30 13:30-15:30

場 所▶ 結核研究所

2. 自衛消防訓練審査会

日 時▶ 2015年9月11日（金）

場 所▶ 清瀬市コミュニティプラザ

院内タクシーのりば

6月1日より正面玄関脇にタクシー停留所ができました。タクシーは10:00～18:00くらいまで待機していますが、混雑等によりいない場合もあります。その際は正面玄関より入って右奥の、タクシー呼び出し専用電話（通話料無料）をご利用ください。



編集後記

笑顔の人は強い。笑顔に勝る幸福の因はないと思っても、人生の途上には、思いがけずさまざまな問題が起きてきます。壁にぶつかる時もあります。しかし、そんな大変な時こそ、反対に、明るい笑顔で周囲の人を元気づけながら一歩ずつ進んで行こうと思います。これから夏本番を迎え、心を元気にして暑い夏を乗り切っていきたいものです。

（マーシー）